

「医学教育の起点としての図書館」

医学部 解剖学講座形態医学分野 助教 なかねひろのぶ 中根裕信

医学図書館 主任司書 はしいかえこ 橋井嘉枝子

統括司書 もりただし 森田 正

1. はじめに

鳥取大学は湖山キャンパスと米子キャンパスにわかれており、医学部は米子キャンパスにある。以前は湖山キャンパスですべての学生の一般教養課程の授業が行われていたが、2008年度のカリキュラム改変を機に医学科の学生は一般教養課程の1年生から米子キャンパスで学習することになった。

そのため、医学図書館は、医学の専門図書館としての機能に加えて、医学教育の起点となる学習支援が求められている。そこで、教養を学ぶ学生が人体へ興味を持つことができるように、2009年度から「人体」コーナーを医学図書館のカウンター前に設け、人体の構造や機能を分かりやすく解説した図書や動画を紹介する試みを開始した。さらに、医学への知的好奇心を刺激する目的で図書館セミナーを開催し、医学に関連する様々なエピソードや「人体」コーナーの活用方法を伝授している。また、2010年度から医学科や保健学科の授業の合間に「人体」コーナーの出張図書館を始めて好評を得ている。本稿では教養課程のカリキュラム改変をきっかけに、医学教育の起点となることを目指した医学図書館の一連の取り組みについて報告する。

2. 経緯と取り組み

① 取組の背景

医学科1年生は、2008年から米子キャンパスで、一般教養課程の授業を受けるようになった。このカリキュラムの変更の結果、前期の一般教養科目を終えて後期の医学専門科目に移行する際、教育内容の大きな変化に戸惑いの声を聞くようになった。数人の学生と話してみると、人体や臓器の概要が頭に入っていないことが原因のようであった。そこで、専門科目に入る前に、前期の基礎生物学で人体の概要を講義するようにした。しかし、講義は3回に限られるので、それ以外に、人体に関するわかりやすい資料が図書館があればいいと感じていた。

この頃の医学図書館は、医学専門教育の導入時期に、人体に興味を持ち自主学習を行う学生を支援するという新たな役割を課され、それに応じた資料収集を行う必要にせまられていたと言える。一連の取り組みは、医学の専門知識を持つ教員の助言と、学生のニーズを把握しながら始まり、成瀬館長と医学図書館委員会の議論を経て実行に移されていった。

② 人体コーナーの開設

まず最初にとりかかったのは「人体」コーナーの開設であった。専門書が並ぶ蔵書の中に、図や解説がわかりやすい人体の入門書などがあれば、学生の知的好奇心を刺激し自学自習にも役立つと考え、図書館に新入生向けコーナーの設置を要望した。図書館での検討の結果、2009年に新入生向けの「人体」コーナーが開設され図書やDVDが並べられた。図書は、1年生が読んでも理解できる平易な内容であること、しかしながら監修は信頼できる解剖学者や科学者であることを念頭に教員も加わり選考した。「人体のからくり」「人間はどこまで耐えられるのか」「自分の体で実験したい」など今までにない学生の興味を引く内容の図書を多数集めた。実際に試読・試聴してみると、これらの図書やDVDは、新入生だけでなく上級生の学び直しにも有用と思われた。



2008年頃の人体コーナー



2011年頃の人体コーナー

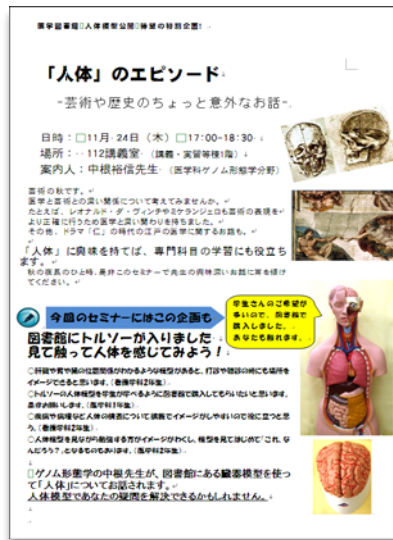
③ 図書館セミナーの開催

「人体」コーナーの設置の翌年から、年2回のペースで、「人体」コーナーの資料や医学系webサイトを紹介することを目的として「図書館セミナー」を開催している（表参考）。セミナーでは、医学と芸術や歴史との関わりを示す興味深いエピソードも取り上げている。2009年7月、「人体の謎にせまる夏のセミナー」と題して第1回図書館セミナーを開催した。その際のアンケートには「自分の知らないことがたくさんあることを痛感し、人体について興味を持つことができた」という回答もあり、我々の取り組みが、学生の知的好奇心を刺激していることが確認できた。2011年のセミナーでは、ダ・ヴィンチやミケランジェロが、人体解剖を行うことで実物を知り、遠近法や陰影法を用いて実物に近い立体的な解剖図を描き、芸術や医学の発展に貢献したことを紹介した。その後も、ロボット手術、iPS細胞(induced pluripotent stem cell 人工的に誘導した多能性幹細胞)など様々なテーマでセミナーを開催し好評であった。

第1回図書館セミナーのポスター



第5回図書館セミナーのポスター



第4回図書館セミナーの様子



第7回図書館セミナーのポスター



第6回図書館セミナーの様子



④ 出張図書館の開催

「人体」コーナーの設置や図書館セミナーの開催は、もともと図書館に親しみのある学生には有効な取り組みであったが、図書館に立ち寄ることが少ない学生には別のアプローチが必要であった。そこで、「図書館や「人体」コーナーを知ってもらうために、休憩時間に5分でもいいから図書館の資料を学生に見てもらおう。」というコンセプトのもとに2010年から出張図書館を実施した。休憩時間になると図書館職員の持参した図書を手に取り興味深そうにページをめくる学生の姿が見られた。出張図書館の学生のアンケートには「興味がわく内容が多く、利用してみたいと思った。」「各自の興味の刺激に役立ち、勉強への意欲につながると思います。」「図書館は難しい医学書ばかりと聞いて敬遠していました。図書館に行くきっかけにもなると思います。」「先生の紹介の本を早速借りました。良かったです。」など好意的な内容が多く、学生が図書館を身近に感じるきっかけとなったようであった。

特に、図書館の敷居が高いと感じていた学生にとっては、蔵書を知るよいきっかけとなったようで、出張図書館に向いた学年の利用者数が前年に比べ約2倍に増加した。出張図書館をなるべく多くの学生に体験して欲しかったので、成瀬館長や平松先生など、複数の先生の授業でも開催した。特に、成瀬館長は出張図書館に深いご理解を下され、医学図書館が学生と関わる機会を何度も持たせていただいた。



出張図書館で人体・臓器模型の説明を受ける学生

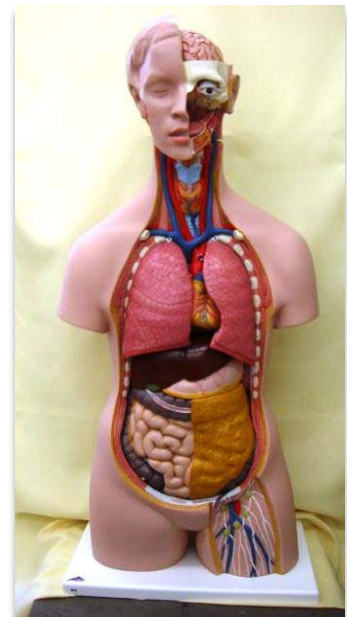
⑤ 人体模型の導入

米子キャンパスに1年生の教養課程の移行が行われた頃、基礎生物学の授業アンケートに「人体への理解を深めるために自主学習で利用できる人体・臓器模型が欲しい。」という回答が多数あった。自主学習に役立てるには、図書館に常備の模型があれば、学生が勉強したい時に使用できるのではないかと考えた。

本格的な人体模型の導入に先立つ試みとして生体制御学講座の教育用臓器模型をお借りして2011年3月の第3回図書館セミナーで供覧した。学生は臓器模型を手にしながら、じっくりと観察していた。参加した学生には、「図を見るよりもイメージを膨らませながら授業を受けることができる」と好評で人体・臓器模型の充実を希望する意見も多かった。さらに出張図書館でも臓器模型の持参を始めると模型の周囲に学生の人だかりができた。ここでも人体・臓器模型の購入を希望する声が多かったため、医学図書館では運営委員会の承認を得て、2011年9月に「トルソー」と「脳」の人体・臓器模型を購入した。このトルソーは初学者向けの人体模型で、胸部・腹部、内臓や頭部・顔面の解剖学的構造が再現されており、分解して臓器を手にとったり、内部の構造を観察することが可能である。脳の模型は、学生にとって理解しにくい脳の立体構造を分かりやすく示したものである。

こういった人体・臓器模型のインパクトは想像以上に大きく、いったん模型を手にとると、臓器の大きさ・重さ・配置や機能がとても気になるようで、模型を片手に本を調べる学生も数多くいた。

学生達が目を輝かせて「そうか、わかったぞ。絵では奥行きがわからないけど、立体模型で見るとこうなってるんだ。人体ってよくできてるな。」と友達同士で学ぶ姿を目の当たりにして取り組みの成功を確信した。模型に触れた実感がきっかけとなって専門科目へ興味がわいたり、自主学習に積極的に取り組んだりする学生が増えて、専門科目への導入がスムーズになることを期待したい。すでに、上級生の脳や人体解剖実習の予習や復習にも、模型は有効に活用されている。



図書館セミナーの開催と関連事業

日 時	実施事項	内容
2006年		中根の提案による医学資料展示 (色素性乾皮症、コケイン症候群)
2008年から		医学図書館に「人体」コーナーの設置
2009年7月	第1回 図書館セミナー	人体の謎に迫る夏のセミナー 驚異の小宇宙 レオパトラサス 学習の助けになる本(「人体」コーナーの本)やDVD、医学に関する 動画サイトの紹介
2009年11月	第2回 図書館セミナー	小さな秋みつけた! 学習の助けになる本(「人体」コーナーの本)やDVD、医学に関する 動画サイトについての紹介
2010年7月	出張図書館	医学科1年生の授業に「人体コーナー」図書などの医学図書館資料 を持参して資料紹介を行う(2回)
2010年		医学図書館に人体模型を借りる(成瀬館長 生体制御学講座から)
2011年3月	第3回 図書館セミナー	臓器・骨の模型 見て触って人体を感じてみよう ー有名な芸術に秘められていた「人体」のエピソードー
2011年6月	第4回 図書館セミナー	臓器・骨の模型 見て触って人体を感じてみよう ー江戸時代の医学 脚気の話ー
2011年6-7月	出張図書館	医学科、保健学科授業に「人体」コーナー図書などの医学図書館資 料、人体・臓器模型を持参して資料紹介を行う(4回)
2011年9月		医学科図書館で人体・臓器模型購入(分館運営委員会承認)
2011年10月	出張図書館	医学科、保健学科授業に「人体」コーナー図書などの医学図書館資 料(人体・臓器模型も含む)を持参して資料紹介を行う(4回)
2011年11月	第5回 図書館セミナー	「人体」のエピソード ー芸術や歴史のちょっと意外なお話ー
2012年3-5月	出張図書館	医学科授業に「人体」コーナー図書などの医学図書館資料(人体・ 臓器模型も含む)を持参して資料紹介を行う(2回)
2012年5月	第6回 図書館セミナー	「人体」のエピソード ーダ・ヴィンチをめぐる2つのお話ー
2012年7月	出張図書館	医学科授業に「人体」コーナー図書などの医学図書館資料(人体・ 臓器模型も含む)を持参して資料紹介を行う(2回)
2012年12月	第7回 図書館セミナー	「人体」のエピソード ー医学の発見:iPS細胞の開発ー

※引用・参考文献:(3)を参照

3. 考察

大学入学を果たした学生にとって教養教育の時期は、豊かな人間性をはぐくむ上で重要であるが、その間に医学専門教育への興味が低下し、専門に移行したときに学習に対するモチベーションが失われるという問題も存在する。医学科1年生が米子キャンパスに移る際には、教養教育と専門教育の時期やバランスが十分考慮されたが、教養と専門間の移行は学生にとって大きな変化であり、円滑に移行できるようなきめ細かい配慮も求められていた。このような時期に適確な支援体制を整えたのが、学生の自主学習の場である医学図書館であった。「人体」コーナーの設置、セミナーや出張図書館の実施、人体模型の購入と供覧といった学生の知的好奇心を様々な工夫で刺激するサービスを立て続けに打ち出したことは、教養の1年生に対して医学専門教育の起点を提供する貴重な機会を与えたと考えられる。

4. おわりに

今後も医学図書館では、教職員の協力を得ながら、図書館セミナーや出張図書館を、開催する予定である。こういった取り組みが学生の『学び』の起点として役立ち、豊かな人間力が育まれれば望外の喜びである。

謝辞：

この場を借りて、この取り組みに協力していただいた成瀬一郎館長をはじめ医学図書館の皆様、形態医学分野の海藤俊行教授、さらに学生諸君に御礼を申し上げます。これからもよりよい学習支援を目指していく所存ですので医学図書館の事業にご理解ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

引用・参考文献：

(1) 鳥取大学教育グランドデザイン(鳥取大学ホームページ)

www.tottori-u.ac.jp/dd.aspx?menuid=1264

(2) 人間力の考え方 (鳥取大学ホームページ)

<http://www.tottori-u.ac.jp/dd.aspx?menuid=2382>

(3) 講演会・講習会のポスター・報告書 (鳥取大学医学図書館ホームページ)

<http://lib.med.tottori-u.ac.jp/koenkai/koenkailist.html>